

プロレタリア解放内争の前征

労共委と団結してたたかおう。

日本支配階級とその兵力の打倒、米軍追放、 プロ独樹立の戦列に結集せよ！

労働者共産主義委員会

へ共に団結してたたかおう。

10・21中央集会に参加した斗かう友人の皆さん。テレンボゾウであつたように、国籍や民族にとらわれない共産主義者の組織が必要であることを承認し守保、沖縄、基地斗争勝利のための決意に断乎たるないもの、世界革命のために全世界に活動の場を求めようとするものたちは、真の国際主義者ではないのである。日共は、自主独立をとなえ、国民党系に変質して久しい。革マルなどは、「各回の国家権

一連のミッドウェー横須賀母港化糾弾の斗い、十ハ全都学生戦線総決起集会は、広範な国際主義的斗いを実現し、戦斗的学生運動の再興をすすめる方向として連帯するものである。

わが委員会は、10・28朝霞自衛隊観劇式糾弾斗争金大中拉致糾弾、日韓関係会設粉砕、韓国学生の決起支持の斗い、11・20・27の狭山差別裁判糾弾、石川氏奪還の斗い、イスラエルの侵略、米帝の加担糾弾、パレスチナ解放斗争支援の斗いに連帯し斗う決意である。これらの斗いを共に担うことを呼びかける。

へ「革命的左翼の混迷」と革命的実践の方向とは何か、……、

ところで今日、「革命的左翼の混迷と分解の止揚」
「真の革命党の建設」ということが叫ばれている。
たしかに、戦斗的左翼の分解と混迷という指摘は一面において正しい指摘であろう。にもかかわらば、「革命的左翼の混迷」ということを何度語ろうとも問題はいささかも解決しないということを知らなければならぬ。

共産同の大分解、ML同盟の崩壊、構改革の分裂連合赤軍の敗北、これら一連の事態は、共産主義運動の唯物論的総括の欠如、主観的観念的小スル組織活動の方法への埋没、プロ独樹立、世界プロ独裁興現を口先のものとしていたことなどの必然的帰結であった。

へ口先の国際主義と袂別せよ

プロレタリア世界革命を口先のものとするのではなく、自らの組織が世界革命のためにたたかなければならぬ。コミンテルンの変質と解散の歴史をどのように評価し、どのような態度をとるか、一つの試金石である。マルクス、エンゲルスの参加した共産主義者同盟、レーニンがよびかけたコミン

力の打倒をめぐりて遂行されるか、それはプロレタリア国際主義の立場に立って実現されなければならない。そうすることによって革命の国際的波及も可能となる」と国際主義を組織実践にもとめるのでなく立場にしてしまっている。

「アジアを反帝反スタ 世界革命の岩」と主体的組織実践をめぐりて叫びをしているのが中核派であり、毛沢東主義者たちは、自力更生」という主張をもって国際主義を口先のものとしている。プロレタリア国際主義の真実の実践と無縁な口先の国際主義、これが左翼諸派の一つの致命的欠陥である。

赤軍派など「スト系諸党派が世界党建設を叫んできたが、唯物論者は、党が必要だということ、自己がどのように活動するということとは同一のこととみ直すのさあ、て、党を未来に願望するということと無縁ではなければならない。

へプロレタリア独裁樹立のための斗いを口先のものとする部分と袂別せよ

自己の独自の当面する政治的自的をプロレタリア一トの社会革命の不可欠の条件であるプロ独裁の樹立より大ききプロレタリア独裁国家の創設におかないものは、プロレタリア解放斗争と無縁であり、口先の共産主義者である。

日共は、この12回大会において、プロレタリア一ト独裁をプロレタリア一ト独裁と修正し、「民主的改良のための民主連合政府の総綱について」の提議を決議しようとしている。「民主連合政府」民族民主的改良を当面の目標としている。最早、今日の日は、小スルの改良主義者、マルジョア民主主義

「奴心毒」を読もう。

(裏へ続く)

プロレタリア解放闘争の前行

労共委と団結してたてがめよ

(本一面より続く)

者に変換してきている。彼らは、プロレタリア階級の利益とは完全に無縁であり、口先で共産主義を語るが、実際は、小ブルの改良をも、はらとする目利見主義者にほかならない。

軍マル派は、革命運動とは組織づくりとしこあらわれを称し、政治活動を組織づくりに従属させ、決定的に狭められている。彼らの政治活動は、「労働組合運動の左翼的闘争の推進」「学生運動の革命的推進」「革命的反戦闘争の推進」等々である。彼らは、組合主義、自治会主義であり、小ブル平和主義にほかならない。

軍共同中核派などの五派共同声明にみられた方向は、「安保粉砕」「日帝打倒」であった。いずれの党派も、七の年守保闘争を戦闘的におしすすめる以上のものではない。中核派は、「侵略を内乱へ」と語りながら、反侵略闘争に懐疑してきた。侵略反対闘争を組織することは、人民の国際主義的意欲を高め、国際的連帯を促進する役割を果すであろう。だが、それがそのまま内乱に発展するわけではない。スンドが一時期主張した「侵略反革命を内戦へ」という主張も政策阻止革命論であり、侵略反革命反対闘争が革命的闘争であるという全く誤ったものである。たゞ、党活動が「反侵略のためには」に狭められており、プロレタリア独裁樹立という政治的任務を實現するものとして系統づけられていないのである。

共産同戦派の諸君などは、「侵略反革命粉砕の闘い」ということだけでは、他のたてがめが位置付かないことはいささか始末であらう。侵略、抑圧、差別、搾取、収奪のあるところにはたてがめが起きることは、歴史の示すところである。だが、プロレタリア解放のためには、そうした闘いの延長線にあるわけではない。プロレタリア解放闘争の前行たらしめるならば、何よりも、侵略、抑圧、搾取、収奪、差別などに対するたてがみの推進だけが、党活動であるというような活動方法から差別しなければならぬ。これらのたてがみの政治的意義をふまえて、プロレタリアートの独裁樹立のための活動をすることを学ばねばならぬ。

蜂火派の人々は、今日「安保粉砕」「日帝打倒」「臨陣政府樹立」を叫んでいるが、「日帝打倒」「臨陣政府樹立」を単なるスローガンにしている。一斉武装蜂起の系統的準備の活動を、スローガンをとることに思いがたいしているようである。そして、実際の活動は、経済闘争、民主主義的闘争、反侵略闘争の大衆的活動に狭められている。自己の当面の政治的任務をプロレタリア独裁に置き、口先でなく、政治権力の奪取をからとるための活動を系統的にすすめているかどうかが、これが本二の問題である。

▲革命党の必要を口先で語る傾向と批判せよ
前行党建設を叫んでいる諸君は、自分たちが、プロレタリア解放のためには、前行たらしめたいことを、理論の不十分性や組織的弱さということをもち出して合理化している。だが、これを口裏と可るなら、共産主義とか、プロレタリア革命とかを語ることも自体が無責任な行為である。自己の組織の形成と歴史についての唯物論把握をし、プロレタリア解放闘争の利益に忠実で、プロレタリア的民主主義に立脚したプロレタリア的中央集権制につらぬかれたい組織へと自己を変革すべきである。かかる姿勢と組織実践がないところで、前行党建設を語っても、前行の統合など全くの幻想でしかないのである。自己の組織の出生とその歴史にたいして、真に責任をまっとうしていこうとしているかどうか、これが本三の問題である。

▲社共の政权構想を支持せず、労共委とともに前進しよう

今日、日本支配階級は、対米バランスの回復と称し、インフレを促し、独占を強め、収奪を強化している。通常国会での国鉄運賃値上げ、健保改正、来年参院選対策と称する財政の拡大などは、これを一層促進するものである。

大規模な資本輸出をすすめる、東南アジア、アメリカ、中南米での収奪を強め、搾取、収奪を行い、懸従をも生み出している。金大中収奪をたてた上には、また閣僚会議を強行しようとしている。

通常国会で防衛二法を強行し、沖縄人の自衛隊派遣防衛隊の設置、南西航空機成団の設置などを實現することを確認した。ミッドウェー母港化、関東計画、自衛隊の米軍基地への進駐と日米同盟の再編がすすんでいる。

共産主義雑誌

The PROLETARIAN

CORRESPONDENCE

150円

を購せよう

また筑波大学の成立、大学の国家統制、学生運動の抑圧の突破口が崩れ、さらに新大管法と大学の支配が揺れ動いている。

臨時国会では、国土総合開発関係法の成立を組織、靖国神社法案、教員人材確保法案、教頭法制代、地方公団合理化法案、優生保護法案などが再び上程審議されることになっている。

通常国会において明らかになったことは、再度民社党が自民党を助け、諸反動法を成立させる主張をえんじたこと、社共は国会改革、民主代ということを至上目的とし、院内外でのたたかいを本気でやる気がないこと、したがって国会での議席を一つでも多くすることを主目標にしているということである。総評などは必分粉砕のたてかいを組むというたが、実際は国鉄勤労の闘いしか行いえないが、たのが現実である。

最早、斗つ労働者学生仲間にと、て自明なことであろうが、公明、民社、社会、共産の諸党ならびに同盟、中五労連、総評などの現指導部を信頼してはならないし、支持してはならないこと、このことを大衆的に確認しなければならぬ。

曰共、社会党の政権構想——マルシヨア的改良の政府構想を支持してはならないこと、ポレタリートの独裁のために斗つ革命党——労共委と連帯すべきこと、このことを労働者人民の中に広げることが必要である。

今日、政治的主張の厳密かつ体系的な検討なくして、とにかく国会選挙にかかわろうというような方向は、大衆運動のために選挙を利用するという急進民主主義系としてふるまうことしか意味しないのである。

日本の戦斗的左翼の限界については先に述べた如きである。わが委員会も、未だ幼稚であるが、世界的事業としてなされる共産主義革命の勝利のために、口際ポレタリートの前衛としてたたかう決意である。共産主義インターナショナルは、現実的に、実際に、単一の世界共産党をなげなければならないというコミンテルン規約の宣言を断乎つけつき、口先の口際主義者と断乎斗うであろう。

わが委員会は、日本において、当面の政治的目標をポレタリオンにおき、そのためにすべての活動を系統づけ、ポレタリオンをなげすめる日と見主義者、ポレタリオンだけをすます経済主義者と断乎斗うであろう。日と見主義者を孤立させ、敵の要塞を包囲し、マルシヨア軍隊工作をすすめる労働者人民の武装をすよめ、戦斗能力を高め、広範な労働者人民を政治斗争にたああからせ、かつ一斉武装蜂起を成功させるための準備を断乎すすめる決意である。かかる活

動を大胆かつ慎重にすすめるポレタリオン解放斗争の前衛——わが労働者の隊列を確保することなくしてポレタリオン解放斗争の前衛はありえないであろう。

斗つ労働者、学生、諸君、世界ポレタリオンの前衛の隊列に結集しようではないか。日本におけるマルシヨア支隊の転覆、ポレタリオンのために共に闘おうではないか。

次に現在、先進的労働者、学生に要求されているいくつかの点について訴えたい。

オーストリア、国際主義的闘いとして、韓日学生反斗、反日帝の闘い、在日朝鮮人民の反斗、南北自主統一の要求と断乎連帯し、金文中拉致糾弾、日韓国餐会、議反対のために斗うこと、イスラエルの侵略と米帝の加担を糾弾し、パレスチナ解放の闘いを断乎支援することである。わが委員会は、社政権と日本政府への抗議、糾弾の嵐をまきおこすことをよびかける。

わが委員会は、パレスチナ連帯共斗会議主催のマルシヨア宣言五六周年パレスチナ革命連帯共斗会を支持し、この集会への結集をよびかける。

オーストリア、反自衛隊、反米軍のたたかいを確保することである。横須賀、北子、相模原の闘い、千葉、体糾弾のたたかい、自衛隊パレード糾弾の闘い、北

富士、沖繩での反自衛隊斗争を断乎支持し、更にたたかいつよめることをよびかける。長沼判決、千のクーデターなどをめぐって、自衛隊にたいする態度が鋭くとわれてきている。曰共はクーデターをおきたらどうするかをなく、そのような状態がおきないよういままから対処し、統一戦線の確保、必要ならば自衛隊へのよびかけをおこなっていくことが必要です。金子書記局長などと語っている。

同じことは、千共産党書記長ゴルバランもいっている。彼らは「合法的政府を暴力的にたたくことは許せない」と、マルシヨアの泣き言をもち、軍隊解体のたたかいはおきかえてしまっている。それだけでなく、民主連合政府で一致し、自衛隊解体を行おうという全く幻想的主張を行っている。こうして日

和見主義を打ち砕き、自衛隊解体にむけ、あらゆる手段を使って準備していかなければならない。

オーストリア、狭山裁判の公判再開に際し、差別裁判糾弾、石川代奪還のたたかいに連帯し、闘うことである。

部落解放はポレタリオン革命なくしてありえないなどという観念的なことを説教するのではなく、被差別部落民のたたかいと断乎連帯し、差別と闘うことこそが必要である。マルシヨアが差別を再生産し、維持するのにはいし、ポレタリオンは、革命の進行においてあらゆる差別、抑圧を断絶させる階級であることをおさえねばならない。したがって、部落解放運動におけるポレタリオンの指導性を

